

1 題 材 名 「言葉と手を上手につかって」

2 題材設定の理由

本学級は、児童2名が在籍する。それぞれの授業の中で個別に自立活動の時間を設けているが、週に1単位時間は、2人で共に取り組める活動を行っている。児童の実態や抱える課題はそれぞれだが、共通の課題としてコミュニケーション能力が上げられる。自分の気持ちや要求を的確な言葉で相手に伝えられなかったり、相手の意図が理解できなかったりするため、友達との関わりで問題が生じ、人間関係が深まらない傾向が見られる。また、勝ち負けが生じる場面で負けることを極端に嫌がり、活動を楽しむことができなくなってしまうのも共通の課題である。さらに、指先を使う作業があまり得意でなく、日常生活に必要な作業能力が身に付いていないのも共通の課題である。

本題材では、言語活動・身体活動を取り入れた遊びを体験することを通して、他者との関わりを楽しみながら、言語や身体に関わる基礎能力を向上させることをねらいとしている。また、交流学級など他の集団生活にも、楽しく参加するためのスキルにつながると考えられる。

指導にあたっては、大きく3つの活動を組み合わせて授業を展開し、児童の集中力が途切れないようにする。まず、「聞く力」のトレーニングや、言葉によるキャッチボールを楽しむ言語活動でウォーミングアップを行い、次に手、特に指先を使った活動を行う。ゲーム性をもたせる等、楽しく取り組みながら言語感覚や身体機能の訓練となるように工夫したい。最後に2人で、勝敗のつくゲームを行う。勝ち負けだけでなく、一緒にゲームをすることの楽しさを味わい、他の集団の中でも同じ楽しさを求める行動に結び付けていきたい。

3 児童の実態と個別目標

氏 名	児 童 の 実 態
A	・言葉による他者とのコミュニケーションが難しく、一方的になりがちである。教師の説明を正しく理解できずに自己流になりがちである。順番へのこだわりが強い。
B	・不安なことや思い通りにいかないことがあるとかんしゃくを起こす。言語理解に難しさがあ、個別にかみ砕いた説明や例示がないと作業に取りかかれない。

氏名	短期個別指導目標	題材における個別目標
A	・その場の話題に合わせて発言し、周りとの会話を楽しむことができる。	・教師や友達の話を最後までよく聞いて、内容を理解することができる。 ・相手に伝わるように、言葉を選んで話すことができる。
B	・学習やその他のことで、困っていることを自分から伝えることができる。	・うまくできなくてもいらいせ、わからないことは質問して解決し、楽しく活動に参加することができる。 ・友達の表情に目を向けながら活動を楽しむことができる。

4 指導計画 (10 時間扱い) ○は本時

時間	1	2	③	4	5	6	7	8	9	10	継続観察指導
活動内容	・「言葉をつかって」 聞きとりワーク、絵カード当て、トーキングゲームなど → ・「手をつかって」 ひも結び、ボタン留め、折り紙、豆の引っ越しなど → ・「ゲームで勝負」 ワードバスケット、囲碁ゲーム、バランスゲームなど →										

5 本時の指導

(1) 個別目標

児童名	目 標
A	説明をよく見聞きして、ちょう結びをすることができる。 【5-(3)】 【6-(1)】
B	いらいせに練習をして、ちょう結びをすることができる。 【5-(3)】 【2-(1)】

(2) 準備・資料

ホワイトボード、聞きとりワークシート、ひも結び練習セット、ワードバスケットカード、タブレット
パソコン、書画カメラ、ふり回りカード

(3) 展開

学習内容・活動	支援と評価【評】 ☆ICTを活用した支援
1 あいさつ・メニュー (1) あいさつをする。 (2) 学習内容の確認をする。 1 あいさつ・メニュー 2 聞きとりワーク 3 ちょう結び 4 ワードバスケット 5 ふりかえり・あいさつ (3) 本時のめあての確認をする。 ちょう結びをマスターしよう。	・「よい姿勢」「声のダイヤル」のポスターを示しながら、正しい姿勢や声の大きさを確認する。 ・ボードに書かれた学習内容を読み上げることで、学習内容を確認できるようにする。 ・学習の見通しをもち、時間配分を知り、安心して活動が始められるようにする。 ・今日のメインの活動は「ちょう結びをマスターしよう」であることを確認する。 ・前時までのワークと違い、文字を書くのではなくカードを並べるということを説明し、楽しく取り組めるように支援する。 ・絵カードが何を表しているのか、始める前に確認する。 ・教師の話聞くことに集中するよう助言する。 ・児童の様子を見て、必要なら問題文をくり返し読む。 ・時間があれば、児童同士で問題を作成して出し合わせる。 ・前回より難しい技にチャレンジすることに意欲がもてるように、復習の固結びは、スムーズにできるように様子を見て誘導する。 ☆教師の実演を書画カメラで見せて実物を確認させたあと、解説動画を見せる。 ・ひも結び練習セットを使い、ワンステップずつ解説しながら一緒にちょう結びをする。 ☆各自、動画を見られるようにして、それぞれ練習させる。 【評】A：説明をよく見聞きしてちょう結びができたか。【観察】 【評】B：いらいらせずに、ちょう結びができたか。【観察】 【目標を達成した児童生徒の姿】 観察：ちょう結びができた。 ・カードを使ったしりとりであることを確認する。 ・早い者勝ちのゲームだが、はじめは順番制で練習してみて、慣れてきてから本来のルールとする。 ・両者が意欲的に取り組めるように、思いつかないときにはヒントを出すなどして支援する。 【評】それぞれが本時の目標を達成できたか。 【ふり回りカード】 ・次時の予告をして、次週の活動への意欲につなげる。
2 「聞きとりワーク」をする。 ・絵カードの絵について確認する。 ・マトリックスシートを用意する。 ・教師の問題文をよく聞いて、絵カードを正しい場所に置いていく。 ・答えを確認する。	
3 「ちょう結び」をする。 (1) 前の時間の復習をする。 ・固結び (2) 「ちょう結び」のやり方を知る。 ・動画 (3) 「ちょう結び」の練習をする。 ・結ぶ→ほどく→結ぶ→ほどく ・最後に本時の作品を仕上げる。	
4 「ワードバスケット」をする。 (1) ルールの確認をする。 (2) ゲームをする。	
5 本時のまとめをする。 ちょう結びをマスターできた。 (1) ふり回りカードに記入する。 (2) あいさつをする。	